



TOEFL Primary[®]/TOEFL Junior[®]の 公開テスト体験受験により決めた 外部テストの活用方法について

入学後の英語学習初期段階から熟達度の伸び率を継続的に確認・目標設定する
信頼度の高いテストに出会った

英語熟達度テスト活用推進委員会会長・活用実務教諭

賢明学院 英語科主任 中村 直紀

1. はじめに p.1
2. 英語学習初期段階から全員受験で
「熟達度」の確認になぜTOEFL Primary[®]/
TOEFL Junior[®]を選んだのか p.2
3. 英語学習初期段階から英語を好きになる・
興味を持ってもらう為の工夫 p.12
4. さいごに p.14



Danke Sehr

1. はじめに

35年間英語教育に携わり(ECC外語学院にて20年間、学校現場で15年間)、幼児から大人までの年齢層への英語指導を通じて、様々な角度から日本の英語教育の変遷を見てきた。顕著な改革として、2020年度より文科省からの指針である「グローバル化に対応した英語教育改革」、「学習指導要領の改訂」が始まり、大学入試共通テストでは、センター試験で問われてきた英語力とは全く異なった「英語での思考力・判断力」を測るようになり、「どれだけ覚えたか(到達度)」から「英語をどれだけ運用できるか、どれだけの実践力があるのか(熟達度)」が問われるようになった。また、コロナ禍でICTの活用が急速に早まり、諸外国へ行かなくても現地の講師と身近に実践的な練習ができるようになってきており、今後このグローバル社会で「生き抜き力」を付けていくための様々な方法が生まれている。

正直ECCから学校現場へ来た際、Inputのみを重視し、どれだけ英語を覚えたのか(暗記できたのか)という授業スタイルの学校が多く見受けられ、受験のみにフォーカスを当てて指導しているところが多く、実践力を意識していないことに驚いた。評価の指標も定期テスト、模試を中心に文科省の指標をベースとした実用英語技能検定(英検)やGTECといった「到達度」を測る外部テストが主流であった。ただそこから総合型選抜(旧AO入試)を取り入れている大学が毎年増え、人物を重視するという海外で主流の考え方に少しずつ移行してきていることもあり、偏差値偏重の教育ではなく、社会にどのように貢献できるのかを早い段階から考える必要性が出てきた。要は暗記ではなく、Outputを重要視し、従来の減点方式でストレスを与えながら評価するやり方ではなく、自分は何がどこまでできるようになったのかを把握させ、英語教育においても「熟達度」

を意識した指導が必要になってきている。

今後も様々な改革があると思うが、教員は常に子ども達にとってプラスになる情報を収集し、実践していくという力が求められる。例えば、センター試験の代わりの外部資格試験導入が中止になった時に再度指標を見直した経験がある方も多いと思う。私自身もそれまでは入試で活用できると思い、英検やGTECを指標にしていたが、原点に戻り、大学入試が最終のゴールではなく、グローバル化している世の中で子ども達が活躍するための基盤を作っていくことを最も大切な指標にし、その過程で子ども達の英語能力を「到達度」という観点と「熟達度」という観点から測ることにした。その際、英検は日本においては様々な指標として活用できるので「到達度」を測る希望者制のテストとして残し、「熟達度」は世界中の同世代の子ども達が受験しているグローバルスタンダードであるTOEFL Primary®/TOEFL Junior®(全員受験)で測ることにした。

私自身、子ども達が受験するTest等を決めていく際、子ども達がどう感じるのか、自分の授業の評価にも実際に繋がるのかといった観点から自分で体験することにしている。そして、TOEFL Primary®/TOEFL Junior®を実際に公開会場にて受験し、その特徴や効果を感じ取ることができたので、ぜひ私の教えている子ども達の指標として活用したいと思った。ここでは私自身がTOEFL Primary®/TOEFL Junior®を体験受験し、「熟達度」の確認になぜ選んだのか、またどのように他との違いを感じたのかを挙げていきたいと思う。(Speaking/Writingも体験受験したが今回はReading/Listening問題に関して述べていく。)

2. 英語学習初期段階から全員受験で「熟達度」の確認に なぜTOEFL Primary®/TOEFL Junior®を選んだのか

私が小学校へ異動してきた2年前は、「GTEC Jr.(全員受験)+英検準会場受験(4・5級希望者)」で測っていたが、GTECでは6年生の約7割が満点、英検も4級以上を持っている児童が約6割という結果であり、学習のモチベーションには繋がっていなかった。そこで再度、他教員と共にCEFRの表にあるすべての外部試験を受験し、それぞれの特徴を再度検証した。その結果、「到達度」に関しては、様々な入試での指標に使用されている英検をそのまま準会場として3級まで引き上げて続行することにし、「熟達度」に関しては、子ども達が今後社会に出てからも苦労しないような英語力を測ることのできる世界47ヶ国以上で使われているグローバルスタンダードであるTOEFL Primary®/TOEFL Junior®を選択した。私自身、長年GTEC英語指導アドバイザーとして関わってきたが、自分自身で体験受験をして内容を見直すことと、他教員からの意見を踏まえると、今後求められる英語でのコミュニケーション能力を早い段階から測ることのできる

TOEFL Primary® /TOEFL Junior®が「熟達度」を測る上では、最も効果的であるという結論に達した。

実際に公開会場でPrimary® Step2とJunior®を受験したが、会場での空気感や熱量を実際に感じ取り、子ども達と共に時間を共有できたことで、自校の児童生徒が受験するイメージを体感できたのは本当に良かった。やはり、子ども達の指標にするものは自ら受験し、その価値を感じ取る必要があると思う。また、学校で子ども達と共に受験したこともあるが、終わった後にフィードバックを伝えることができるという点では一緒に受験するのも効果的である。

ここでは実際にTOEFL Primary® Step2とTOEFL Junior®を受験した際に他との違いを感じた部分をセクション、パートごとに挙げていきたいと思う。問題例は、「初めてのTOEFL Primary®テスト問題集 Step2」「TOEFL Junior® STANDARDテスト公式問題集」(くもん出版)より引用した。

<TOEFL Primary® Step2フレーム>

対象	世界47ヶ国以上の国で実施されている英語を母国語としない小中学生
目安レベル(CEFR)	A1 ～ B1
測られる能力	アメリカのETS(Educational Testing Service)が英語を母国語としない世界中の小学生・中学生対象に開発した英語のコミュニケーション能力を測るテスト。 <Reading> 海外で作成、英語を英語で考え、日常で触れるメニュー、スケジュール、ポスター、文章およびアカデミックな文章から出題。 Part1: 複雑な文書やあまり馴染みのない単語を含む文章を理解することができる。 Part2: ・スケジュール、ポスター、グラフなどから情報を見つけ理解することができる。 ・約70語～250語でなる物語やアカデミックな話題について書かれた文章を理解することができる。 ・結果を推論し、導き出すことができる。 <Listening> 日常会話や教室での指示・アナウンス、アカデミックな内容などから出題。 Part1: 学校や家での指示やメッセージを理解することができる。 Part2: 対話を聞いて結果を推論し、導き出すことができる。 Part3: 先生や家族からの指示、メッセージなどの情報を理解することができる。 Part4: 約250語からなる物語や簡単なアカデミックな文章を理解できる。

スコア換算方法	世界共通の評価として Reading と Listening それぞれに 104～115 までのスケールで評価し、それぞれにバンドスコアを設け、現在の英語運用能力を知ることができ、CEFR での指標も示される。
---------	---

(GC&T 公式ウェブサイトより)

<TOEFL Primary® Step2を体験受験しての感想>

Reading編

TOEFL Primary® Step2 の Reading セクションは、どれだけの語彙を暗記しているのか、文法を覚えているのかといった「到達度」を測る英検やGTECと異なり、語彙や文法を直接問うというよりも、1文1文がシンプルな英語で書かれており、全体を理解すれば解ける内容、

選択肢になっている。問題数は多いが、速読の能力を測ることもできると感じた。また、日常生活に基づいた問題からアカデミックな内容まで出てくるので、英語で様々な知識を得ていくことが必要であるということにも改めて気付かされた。

Part 1

ある単語に関する英語で説明が2、3文でされており、それが何を説明しているのかを選ぶ問題が出題されている。本文にある単語をヒントに答えを導き出すという暗記よりも「英語を英語で理解する力」、「英語での想像力」が求められる。

(問題例)

**You call problems or difficulties as this. You may be worried about it.
Teachers don't like it when students cause it.**

What is it?

- (A) Trouble
- (B) Habit
- (C) Change

「problems」、「worried」、「don't like it」から(A)を選ぶことができる。

Part 2

実生活で見られるメニュー、スケジュール、ポスターなどから必要な情報を見つけ出す問題が出題されており、実用的な英語運用能力を測るための大切な指標になっている。また、70～250字前後でのメールのやり取りや、手紙、説明文、物語などの内容を把握しているかがWh-Qsで測られ、問題によってはレポート形式や、実際の会話の流れを読み取るような問題もあり、よりアカデミックで実践的な英語力が問われるが、1文が短いので構成が分かりやすく、全体の内容がつかみやすいので速読がしやすい。

(問題例－メニュー、スケジュール、ポスターなどから情報を見つけ出す問題)

Class Library Schedule

1st Grade	Tuesday 10:00-10:30
2nd Grade	Thursday 10:00-10:30
3rd Grade	Thursday 11:00-11:30
4th Grade	Monday 10:00-10:30
5th Grade	Wednesday 10:00-10:30
6th Grade	Friday 10:00-10:30

Rules:

- Turn books in each week.
- Check out at least one book.
- Do not be noisy!

Computer Use:

- Each student can get 15 minutes on a computer.
- All computer use must be for school only.

How long can students use the computer?

- (A) 10 minutes
- (B) 15 minutes
- (C) 30 minutes

What grade meets in the library on Monday?

- (A) 1st grade
- (B) 2nd grade
- (C) 4th grade

What must students do in the library?

- (A) Use the computer
- (B) Check out a book
- (C) Do their homework

What can the students do on the computer?

- (A) Do homework
- (B) Search for their favorite singer
- (C) Play a game

学校生活でよく見かける図書館の利用に関するの情報を読み取る問題。No.1は「Computer Use」から(B)、No.2はスケジュールにある「Monday」から(C)、No.3は「Rules」から(B)、No.4は「Computer Use」にある「school only」から(A)をそれぞれ選ぶことができる。

(問題例－まとまった英文を読んで、書かれている内容を把握する問題)



More and more scientists believe forest fires should be allowed to burn without stopping them. A forest fire is helpful to an ecosystem in a number of ways. An ecosystem is a place many animals call home. Fires clean the forest floor of dead branches and leaves. They also give nutrients to the ground. The fires kill weeds, harmful insects, and disease. However, allowing forest fires to burn is also dangerous. Fires cause extreme damage to land, homes, and lives. For example, a 1988 Yellowstone National Park fire was allowed to burn, but the fire got out of control and ended in disaster. 800,000 acres of land were lost in total.

Which is NOT a benefit of forest fires?

- (A) Fires can destroy many things.
- (B) Fires clean the ground of a forest.
- (C) Fires help reduce disease.

What happened at Yellowstone National Park?

- (A) A forest fire improved the park.
- (B) A forest fire damaged lots of land.
- (C) A forest fire stopped quickly.

最後の方は徐々にアカデミックな問題が出ており、この問題は「山火事」を題材とした問題である。No.1は「benefitではないもの」が問われており、(B)、(C)は最初のパートで述べられているので(A)、No.2は最後の文章から(B)をそれぞれ選ぶことができる。

Listening編

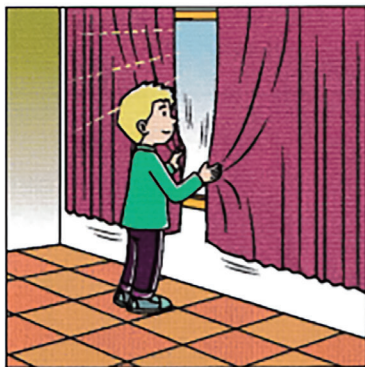
TOEFL Primary® Step2のListeningセクションでは、聞き取る文章や会話は生徒が普段の学校生活、家庭生活、或いは外出した際の場面、先生や父母の指示を聞き取るという問題から約250語からなる物語や簡単な科学、生物などのアカデミックな文章を理解でき

ることまで幅広く測られており、実際にその場面が浮かんでくるような問題である。誰から誰へのメッセージなのかを最初に説明するので、どんな設定なのかはつかみやすくなっており、自分が話し手と共にそこにいるかのような感覚で受けることができた。

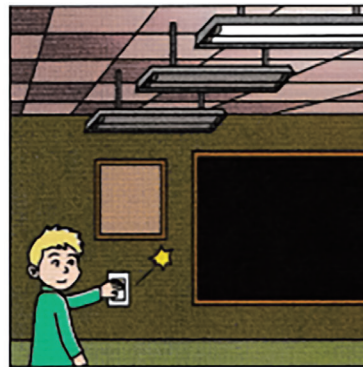
Part 1

先生やお医者さんなど身近な人からの指示や説明を聞き取る問題が出題されており、児童生徒が普段の学校生活、家庭生活、或いは外出した際の場面といった実生活でイメージができるような内容から単語を聞き取り、それに合った絵を見つけていく問題が出されている。

(問題例)



(A)



(B)



(C)

「Videoを見るのでturn off the lightsしてください」という先生からの指示が聞こえてくるの(B)を選ぶことができる。

Part 2

対話文(Dialog)の詳細を聞き取る問題で、対話文を聞き、内容に対してWh-Qsが問われるので、それに対して正しい返答を選ぶ問題である。学校での先生と生徒のやり取り、友達同士のやり取りが主に出題され、指示、メッセージなど聞き取ることと、対話を聞いて結果を推論し、導き出す能力が測られる。対話は一人当たり2文から3文のやり取りであるが、発話は最大で50語にもなるので、事前に問題と選択肢を見て、問われる部分を予測しておくことが必要である。

(問題例)

Where will the boy go next?

- (A) To the library
- (B) To the classroom
- (C) To the computer lab

先生から「惑星について書くように」という指示があり、その際に「use the computer in the library」とアドバイスがあるので、(A)を選ぶことができる。

Part 3

日常の生活圏での一定以上の長さの英文 (Monologue)を聞いて、情報を聞き取る問題で、学校、家、お店、病院などで出されるの20語程度の短いメッセージや指示より必要な情報を聞き取る問題が出題されている。内容も長くなるので全ての語を聞き取るよりも、3～5語を聞き取っていく能力が求められる。正解まで導くためには事前にWh-Qsと選択肢を見て、どの部分が聞かれるのかを予測しておくことは必要である。

(問題例)

What did the principal say to do?

- (A) Bring a camera
- (B) Call a photographer
- (C) Order school pictures

校長先生から「学校写真の撮影があるので、orderがまだの人は金曜日までにする必要がある」という指示があるので、(C)を選ぶことができる。

Part 4

約250語からなる物語、偉人伝、科学分野の内容などアカデミックな内容を聞き取る問題が出される。アカデミックな内容を聞き取り理解していくことは、かなり高いレベルを要求されるが、キーワードを聞き取り、それを繋げて内容を要約するという能力が求められる。Part3同様に事前にWh-Qsと選択肢を見て、どの部分が聞かれるのかを予測しておくことは必要である。また、内容に関しての絵が描かれていることもあるのでそれも大切なヒントになる。

(問題例)



What is special about the snake's fangs?

- (A) They are white.
- (B) They are very long.
- (C) They are very small.

What can the snake pretend to look like?

- (A) Rats
- (B) Frogs
- (C) Leaves

When do Gaboon Vipers hunt?

- (A) In the evening
- (B) During the day
- (C) In the summer time

アフリカのアボンガダーという蛇のことにに関して問われており、No.1は「has the longest fangs」から(B)を、No.2は「look exactly like the leaves」から(C)を、No.3は「hunt in the evening or at night」から(A)をそれぞれ選ぶことができる。

<TOEFL Junior®フレーム>

対象	世界47ヶ国以上の国で実施されている英語を母国語としない中学生、高校生
目安レベル(CEFR)	A1 ～ B2
問題構成	Listening: 42問 約40分 文法・語彙: 42問 25分 Reading: 42問 50分 Total: 126問 約115分 ペーパーベース・マークシート方式
測られる能力	アメリカの ETS(Educational Testing Service) が英語を母国語としない世界中の中学生・高校生対象に開発した英語のコミュニケーション能力を測るテスト。 <Listening> ノンアカデミックな日常会話や教室での指示・アナウンスからアカデミックな授業や討議などから出題。 Part1: 学校内での様々な指示を聞き取る問題(Monologue) Part2: 学校内での様々な会話を聞き取る問題(Dialogue) Part3: 学校の授業や討議などのアカデミックな内容を聞き取る問題 <文法語彙> 語法・文法と語彙・ボキャブラリーの2つのタイプの問題が出題 Part1: 手紙やEメールなど4～5文のノンアカデミックな分野からの出題。 Part2: 記事や伝記など7～9文のアカデミックな問題。 <Reading> ポスター、Eメール、記事などといった日常的な内容から授業で読んだり、討議したりするアカデミックな文章から出題。 Part1: 図表、Eメール、新聞雑誌の記事から必要な情報を見つけ出すノンアカデミックな問題。 Part2: 400語～500語からなる授業で扱う題材や討議する話題の要旨をつかんだり、情報を特定したりする問題。
スコア換算方法	世界共通の評価としてListening、文法語彙、Readingそれぞれに200～300までのスケールで評価し、Overall Scoreが出され、CEFRでの指標も示される。

(GC&T 公式ウェブサイトより)

<TOEFL Junior®を体験受験しての感想>

Listening編

TOEFL Junior®では学校生活の中で出される50語から70語程度の様々な指示を聞き取る問題から、約400語で話される授業や講義、科学や社会性を含んだ内容などアカデミックな内容を聞き取る問題が出されるが、誰から誰へのメッセージなのかが指示されるので、これを聞き取ることで場面のイメージはしやすくなっている。また、一人が話すMonologueも二人が話すDialogueも学校生活の中で起こりうる内容にな

っている。英検やGTECよりも生活に直結している内容が問われる。最後のアカデミックな内容の聞き取りに関しては、実際に授業を受けている感覚になる。その内容についての知識があると非常に聞きやすいので、やはり児童生徒へは国語の指導と同じように読書をする事の大切さを伝えていかなければならないと感じたのと同時に私自身ももっと知識をえていかなければならないと感じた。

Part 1

学校内での様々な指示を聞き取る問題(Monologue)が出題され、児童生徒が普段の学校生活で遭遇する日常的なやり取りからやや込み入ったやり取りまでを聞き取らなければならないが、すべてを聞き取るのではなく、最初に選択肢を見ておくことで大体の内容は推測できると思う。1つの問題に対して、設問は1つしかないのでポイントを絞って聞くことができる。

(問題例)

What will the class probably do next?

- (A) Listen to a famous poem
- (B) Discuss nineteenth-century American history
- (C) Read about the life of an American author
- (D) Write a poem about a famous person

英語の先生の話聞いて、「play a recording for you」を聞き取れば、(A)を選ぶことができる。

Part 2

対話文(Dialog)の詳細を聞き取る問題で、対話文を聞き、内容に対してWh-Qsが問われるので、それに対して正しい返答を選ぶ問題である。学校での先生と生徒のやり取り、友達同士のやり取りが主に出題され、対話を聞いて要旨をつかむ、情報を特定する、結果を推論し導き出すなどの能力が測られる。対話はリアルな生活の場面で5往復ほどされ、発話は最大で70語にもなるので、事前に問題と選択肢を見て、何が聞かれるのかを予測しておくことが必要である。1つの対話に関しては、設問が3つ以上あるが、順番に問われるので追いつやすい。

(問題例)

What is the woman explaining to the boy?

- (A) How to use the library
- (B) How to buy textbooks
- (C) How to find his classes
- (D) How to sign up for activities

What does the boy say he did not have at his old school?

- (A) School maps
- (B) Internet access
- (C) Helpful librarians
- (D) Electronic card catalogs

図書の先生と初めて図書館に来る生徒との会話で、No.1は「access the Internet for research」という先生の説明から(A)、No.2は「weren't allowed to go on the Internet」という生徒の返答から(B)をそれぞれ選ぶことができる。この後にもWh-Qsが2問続き、実際に海外で授業を受けているような感覚で問題を解いていくことは、とても実践的であると言える。

Part 3

授業や講義、科学や社会性を含んだ内容に関しての内容を聞き取る問題が出題され、現地でのリアルな授業を体験しているかのような内容である。もちろん知識があることがベストだが、最初に選択肢を見ておくことで大体の内容は推測できると思う。1つの問題に対して、設問は4つ以上あるが、順番に問われるので、キーワードをメモしながら聞くというskillが求められる。

(問題例)

What is the talk mainly about?

- (A) Structures built by a kind of rat
- (B) Rats that prefer to live near people
- (C) Underground holes in which rats live
- (D) A species of rat that lives in wooden shelters

What would a wood rat probably do if it found a watch?

- (A) Break it into pieces
- (B) Bury it in the ground
- (C) Give it to another rat
- (D) Use it to build its home

校外学習で動物園の飼育係から生徒へモリネズミに関する説明がされており、No.1は「unusual shelters」、「junk-pile homes」、「workmanship of rat heaps」といった語から(A)を、No.2は「To build their shelters, wood rats go around looking for things …」から(D)をそれぞれ選ぶことができる。この後にもWh-Qsが2問続き、実際に動物園で説明を聞いているような感覚で問題を解いていくことはとても実践的である。

Language form and Meaning編

文法、語彙力を測定するセクションで、ノンアカデミックな手紙、Eメールの文章や、アカデミックな雑誌や記事の中で「コミュニケーションを取るために必要な能力」として問われている。従来のように文法を「〇〇形」、「〇〇進行形」のように難しい言葉で説明するだけではこのような問題を解くことはできないし、語彙は文章の中で理解していくことで実際の意味やニュアンスを覚えることができる。解きながら、文法は「自分の伝

えたいことを正しく書いたり、話したりするため」に学ぶという感覚で学習を進めるべきであると感じた。これは英検やGTECのような資格試験においてどこまで暗記できているかを単文で問われるような問題とは異なり、前後関係を把握しながら、どの文法や語彙が適切なのかが問われるので、アウトプットの位置付けとしても捉えることができた。

(問題例)

To raise money for a special one-day trip to Bluestone Mountain, Mr. Clarkson's class

1. (A) sells
(B) has sold
(C) were sold
(D) will be selling

cookies, pies, and other baked goods this Friday from 11:00 A.M. until

2:00 P.M. All the delicious desserts will be fresh and homemade

2. (A) to
(B) of
(C) by
(D) in

his students.

Please plan to stop by our sales table, which will be set up just outside the cafeteria for your

3. (A) success.
(B) convenience.
(C) understanding.
(D) advertisement.

We will be giving out free samples of brownies and oatmeal cookies

- to 4. (A) visit everyone.
(B) a visit to everyone.
(C) everyone will visit.
(D) everyone who visits.

No.1は「これからの予定」なので(D)を、No.2は「行為者」を伝えたいので(C)を、No.3は「見つけやすさ」を表すために(B)を、No.4は「訪問者誰でも」という目的語で表すために(D)をそれぞれ選ぶことができる。

Reading編

TOEFL Junior®のReadingセクションは、スケジュール、ポスター、お知らせなどから情報を見つけ出す日常生活に基づいた問題から400語～500語からなる授業で扱う題材や討議する話題の要旨をつかむアカデミックな内容の問題がWh-Qsで測られる。個人的には情報を見つけ出す問題は「英語を英語で理解しているか」の能力を測ることができるので、Reading問題の中では最も実生活での英語運用能力が問わ

れる問題であると思う。また、授業で扱う題材や討議する話題の要旨をつかむアカデミックな内容の問題では、様々な授業の内容が出題されるので、確かに知識を増やさないと解けない問題も出てくるが、先ず段落ごとに何が書かれているのかをサマライズしながら読んでいくことで対応はできるはずである。また、問題数は多いが、内容全体を把握する速読の能力を測ることもできると感じた。

Part 1

スケジュール、ポスター、お知らせなどから情報を見つけ出す問題が出題されるが、実生活での英語運用能力を測る上で、与えられたものから必要な情報のみを見つけ出すというのは大切な指標である。日常生活で目にするものだけでなく、様々な図表からWh-Qsの答えになる情報を見つけ出していく必要がある。

(問題例)

Parents' Day Activities

Time	Activity Name	Activity Type	Leader (Teacher)
9:00-9:45	World History	Student Presentation	Ms. Chambers
9:30-10:30	Student Science Projects	Exhibit (library)	Ms. Demarco
10:30-11:30	Karate	Demonstration (athletic field)	Mr. Ryan
12:30-1:15	Watercolor Painting	Demonstration	Ms. Ramos
1:00-4:00	Student Photography	Exhibit (main hallway)	Mr. Campbell
1:30-3:00	Nature Club	Presentation	Ms. Demarco
2:00-3:00	Football	Sports Activity (athletic field)	Coach Barry
3:00-4:00	Gymnastics	Demonstration (gymnasium)	Mr. Brewster

Notes:

- All activities without a location listed will take place in the cafeteria.
- Students who have volunteered to help with setting up and cleaning up will be asked to attend a special meeting on Thursday at 3:00 in the gymnasium.

Who will lead more than one activity?

- (A) Ms. Demarco
- (B) Mr. Brewster
- (C) Mr. Campbell
- (D) Ms. Chambers

Where will the demonstration of watercolor painting take place?

- (A) In the library
- (B) In the cafeteria
- (C) In the gymnasium
- (D) In the main hallway

学校生活でよく見かける授業参観日のアクティビティの予定表から情報を読み取る実践的な問題。No.1は「Leader」の箇所から(A)、No.2は「Notes」から(B)をそれぞれ選ぶことができる。この後にWh-Qsが2問続くが、必要な個所のみを見つけ出せば答えは見つけ出すことができる。

Part 2

まとまった英文を読んで、書かれている内容を把握する問題が出題されるが、メール、新聞雑誌の記事から必要な情報を見つけ出すノンアカデミックな問題から400語～500語からなる授業で扱う題材や討議する話題の要旨をつかむアカデミックな内容の問題がある。1つの問題に対して設問は4つ以上あるが、順番に問われるので情報は取りやすくなっている。

(問題例)

As its name suggests, the acacia ant lives in acacia trees, and it chooses the most inaccessible places in the tree to build its nest. When an ant finds itself on a tree, it will start making a hole beneath one of the thorns, the sharp needle-like structures growing
Line on the branches. When the hole is big enough, the ant will start a family there. That
5 family soon grows very large, and when it is a few hundred strong, it will protect the whole tree, from the roots up to the leaves and flowers, by defending against invaders.

Acacia ants ward off not only small animals, like sugar gliders, but also large ones, like goats or giraffes. As soon as the ants detect an intruder near the tree, they quickly rush toward it and bite it, injecting a toxic substance into the animal's skin. The
10 substance is not life threatening, but it creates enough pain to make the intruder look for another tree whose tasty leaves are not so well guarded.

The ants protect the tree because it is in their interest to do so. If a giraffe were to destroy the tree, it would also mean the demise of the ants' home. Such animals are thus a threat to the ant. But acacia ants do not frighten away all animals that come near them.
15 Scale insects, for example, are quite welcome, because they produce a sweet juice the ants enjoy. Some of the ants' food also comes from the acacia tree itself. Acacia trees provide a kind of oil that is collected by the ants and taken to their nests. It is one of the favorite foods of baby ants.

What would be the most suitable title for the passage?

- (A) A Tasty Tree
- (B) The Tiny Protectors
- (C) Making a Small Home
- (D) Observing a Dangerous Insect

Where on the acacia tree do acacia ants build their nests?

- (A) On the leaves
- (B) Near the roots
- (C) Under the thorns
- (D) Inside the flowers

生物の授業で先生がアカシアアリの生態に関しての説明をしている。No.1は「start a family」、「protect the whole tree」、「ward off not only small animals …」といった箇所から(B)、No.2は「start making a hole beneath one of the thorns …」から(C)をそれぞれ選ぶことができる。この後にWh-Qsが6問続くが、必要な箇所のみを見つけ出せば答えは見つけ出すことができる。アカデミックな内容を読み取る問題は3題ほど出題されるが、毎回違った知識が身に付くので非常に興味深い内容になっている。

3. 英語学習初期段階から英語を好きになる・興味を持ってもらう為の工夫

実際にTOEFL Primary®/Junior®を体験受験し、上記の様な感想を持ち、自分が教えている子ども達の英語力をこのグローバルスタンダードなテストで、日常生活からアカデミックな内容までの「熟達度」を測っていきたいと思ったのと同時に、自分自身の授業展開の指標にも役立つと感じた。自校でも年々インターナショナルスクールからの入学者の割合も増えているので、確かにCommunicativeな授業の展開はしやすくなっ

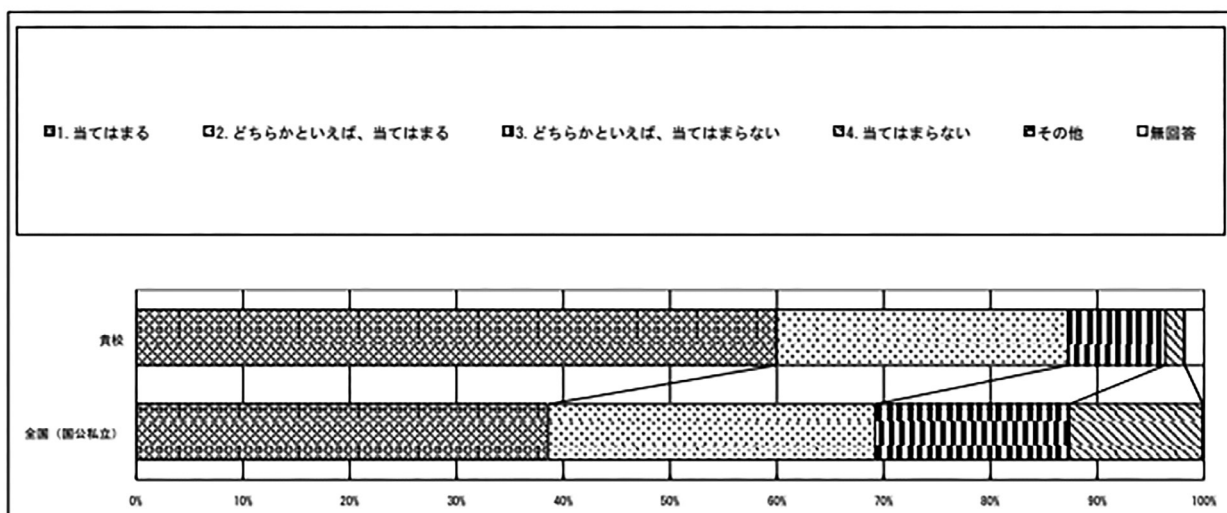
てはいるが、当然小学校に入って初めて英語学習を始める児童もいるのでどこに合わせて授業を進めていくのかは確かに難しい。これは中学1年生を教えている先生方も特にこの近年感じている部分だとは思うが、まずは「英語が好き」かどうかという指標を持ち、その上で授業展開を考えていべきだと思う。ここで私自身がどのように英語教育を展開しているのかを紹介したいと思う。

(1) アンケート結果

「英語が好きかどうか」を客観的に見ることはとても大切にしており、特にアンケート結果等は自分の授業を反映しているので、子ども達

がどのように感じているのかは注意して見ている。今のところ約90%の児童が「好き」と答えているので良い展開はできていると思う。

質問番号	質問事項										
(55)	英語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	60.0	27.3	9.1	1.8						0.0	1.8
全国(国公立)	38.6	30.6	18.2	12.5						0.0	0.1



(令和5年度全国学力・学習状況調査 回答結果集計より)

(2)教材選定と指導観

ECC外語学院時代より、良い授業の定義は「生徒が話す量が先生よりも多いこと」とされてきており、児童生徒が主体となった授業構成にするためにその指導法は現在も活きている。英語の使用量も8:2ほどにしており、難しい説明をする時のみ日本語にしている。最初は聞くことに慣れていない児童生徒も徐々に慣れてくるので思い切って英語の使用量を増やしていくことは大切である。また、どのレベルに合わせてながら授業を行うのはそのトピックやプラクティスの内容に応じて変えてはいくが基本的には上のレベルに合わせて行っている。ただし、その際にはペアリングの工夫をして、理解してい

る子ども達がリードしていくという形にしている。そして、常に間違っても良いという雰囲気を作っているのも、誰もが積極的に挙手し、答えることのできる環境を重視している。使用教材の一例として小学校6年生では以下の様な日常的な状況下においてのダイアログの中で文法事項も織り交ぜながら進めている。TOEFL Primary[®]、TOEFL Junior[®]の受験では、こういった場面設定をたくさんしておくことで頭にイメージが湧き、感覚で解くことのできる問題も出てくるので児童生徒の更なる英語学習への興味関心につながる。

(教材例－小学校6年生 Oxford大学出版社「Get Ahead1」)

- Kento Where are you going to go on vacation?
Mika I'm going to visit **my aunt** in **Kuala Lumpur**.
Kento Oh, I'd love to go there! What are you going to see?
Mika Well, I really want to see **the National Museum** and **the Petronas Towers**.
Kento That sounds amazing! How long are you going to stay?
Mika Two weeks. I can't wait!
Kento Well, don't forget **your camera**!

ここでのGrammar Pointは「be going to～」を使って未来の予定を学習する。最終的には青字の部分で自分たちの言葉に変え、覚えたものをプレゼンするという流れになっている。当然、OutputするためにはInputが必要であり、そのバランスを重視している。

(3)フィードバック

毎学期の授業の振り返りでは、＜授業を振り返っての感想＞、＜自分で伸びたと感じる事＞、＜先生へのメッセージ＞を自由に記入させており、お互いの確認事項としてフィードバックを

(児童からの感想例)

＜授業を振り返っての感想＞

楽しみながら授業を受けました。一〜四年までは、おもしろいしかやなくて、さうふざけていました。でも五年、六年になって英語をやっている事の本当の意味が分かりました。英語の時間が本当に楽しかったです。ありがとうございました。

＜授業を振り返っての感想＞

いつもペアでスピーチを作って覚えるのが楽しいです。その時Naokiがアドバイスをくれるので助かります。過去系を覚えるのがとても楽しかったです。

(4)「熟達度」と「到達度」の測り方

現在、「熟達度」を測る分析指標としてTOEFL Primary®/TOEFL Junior®を選択、活用していることは上述の通りだが、学習指導要領に沿ってどれだけ覚えたかという「到達度」を測るために英検の活用も希望者には実施している。ただ、英検は可否で判別するテストなのでECC外語学院時代よりその結果によって子ども達の英語学習へのモチベーションが変わっていき様子をたくさん見てきた。不合格を繰り返すことで、自信を失い、英語が嫌いになってしまふケースが多々あった。

そこで現在はそういった状況を回避すべく、本人だけでなく、保護者の皆様にもどのタイミングで英検を受けるべきなのかをお伝えするようにしている。その為にユニバーサルなスコア尺度CSE (Common Scale for English) を英検の各級で表記した個々のCSEスコアと、各級の1次試験・2次試験の合格基準スコア(英検CSEスコア)を起点とし、スコアを25点刻みに区切った個々の英検バンドを把握し、「到達度」に合わせて受験するように進めている。

(5)「到達度」(全員受験)と「定着度」(希望者受験)の結果(一例)

TOEFL®のCEFR割合に関して(年度ごとの推移)

<2021年度>4年(受験者55名)

part \ level	below A1	A1	A2
Reading	27%	49%	24%
Listening	11%	45%	44%

<2022年度>5年(受験者53名)

below A1	A1	A2	B1
9%	60%	31%	
9%	41%	46%	4%

<2023年度>6年(受験者54名)

part \ level	below A1	A1	A2	B1
Reading	2%	59%	35%	4%
Listening	2%	46%	46%	6%

英検級ごとの取得者数に関して(高学年)

<2023年度>(2024/3/31付)

学年 \ 取得級	5級	4級	3級	準2級	2級
5年(50名)	14名	11名	8名	3名	1名
6年(55名)	14名	17名	15名	9名	4名

4. さいごに

実際に自分自身でTOEFL Primary®/TOEFL Junior®を体験受験して感じたことは上述したが、やはり子ども達へ提供するものを自身で体験すると、何を指標にしていくべきなのかがクリアになる。教える学年によっても指導内容は変わ

ってはくるし、進路指導というのはもちろん必要であるが、やはりその先にあるグローバル社会で生きていくために必要な英語力を付けていくことが求められている。それは文科省からの英語教育改革の指標にもなっており、大学入学共通テ

ストや総合型選抜入試の普及からも容易に感じ取れる。

そして学習初期段階にはやはり「興味付け」が大切で、英語学習が楽しい、間違っても良いという環境を作り、自信を持たせていかなければならない。それは、スポーツでも趣味でも一緒に、やはり興味があることは自ら自信を持って進めていくのである。その方法としては同じことを共に進めるという手段も効果的である。実際に子ども達と一緒にTOEFL Primary®/TOEFL Junior®を受けるとテスト後の反応がとてもダイレクトでおもしろい。やはり、学習の初期段階で必要なテストというのは「子ども達の自主性につながるテスト」「学習へのモチベーションが上がるテスト」であると言える。

最後に再度私がTOEFL Primary®/TOEFL Junior®を導入、活用している理由を列挙する。

<導入理由>

①子ども達が普段日常生活で経験している場面設定になっており、非常にリアルなイメージのしやすい内容になっている。(私自身が留学して

いた時を思い出すような場面設定であった。)

②世界中の同年代の子ども達と比較して、コミュニケーション実践能力がどれだけ付いてきたのかという「熟達度」を測ることができる。

③学年で同レベルのテストを受験する必要はなく、個々のレベル(3レベル展開)に合わせて幅広いCEFRのレンジで測ることができる。

④聞き取りは一回なので、早い段階から日常レベルからアカデミックな内容の必要な情報のみを聞き取るという習慣を意識づけでき、先々に必要な能力を測ることができる。(共通テストへの準備の初歩段階として使える。)

⑤合否がないので、自分の伸びたところや課題点を把握でき、英語学習に対してのモチベーションが上がる。(TOEFL®は入試のためのテストではない。)

⑥できる、できないではなく今後求められるコミュニケーションスキルを体感できる。

今後も英語教育を巡る環境は大きく変わっていくと思うが、この変化に対応すべくどのように指導を進めていくべきなのかを今後も先生方と共有していきたいと思う。子ども達の未来の為に...

著者紹介

中村 直紀

所属: 賢明学院小学校 英語科主任

活動: 「熟達度」と「到達度」を指標としたカリキュラム作成と実践(週約20コマ)

Oxford大学出版局全国セミナー講師

学歴: 関西外国語大学卒業、アリゾナ州立大学留学(Communication学専攻)

経歴: ECC外語学院にて英語講師、学校責任者、エリアマネージャーを経て、近畿・関東管区運営責任者

研究: COLTを用いた専科教員による小学校外国語授業の分析

(北海道教育大学志村昭暢教授・北星学園大学白鳥金吾準教授と共同研究)

その他経歴: 元GTEC英語教育指導アドバイザー、Club & Radio DJ(大阪と京都にて英語で活動)